

連絡船

北海道天売高等学校

2023年3月16日発行

学校通信 第4号



第64回卒業証書授与式 挙行

学校長より ー卒業にあたってー

3月1日に卒業証書授与式を終え、早いもので3月中旬になりました。卒業する二人の3年生は、12月までに進路も決定し、本校を巣立っていきました。

私は卒業証書授与式の式辞で、3年生の二人が入学した令和2年4月を振り返りお話をしました。ここで、改めて3年生の二人が過ごした日々を振り返らせてください。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、多くの学校では入学式について、保護者の出席を遠慮していただくなど感染症対策を厳格に行い、新入生の高校生活をスタートさせることになりました。マスクの着用はもちろんで、友だちや先生方の素の顔を見ないまま学校生活が始まり、4月末から本校でも臨時休業、5月に入り分散登校など初めて経験する新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けることとなりました。更に、学校祭など学校行事の自粛が行われ、我慢をしいられる高校生活を2年生まで2年間求められることになりました。令和4年度最終学年の年度は、新型コロナウイルスの感染に少し悩まされたものの、学校行事などを例年通り実施することができ、二人には何とか天売高校での良い思い出づくりをしてもらえたのではないかと思います。

令和5年3月1日(水)に卒業証書授与式は予定通り実施いたしました。1名がフェリーの欠航などで出席できず、3月4日(土)に改めて卒業証書授与式を行いました。仕事が休みの在校生も参加してくれ、2回の卒業証書授与式がそれぞれ思い出に残るものになりました。

最後に、二人を支えていただいた多くの皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

第3学年担任より ー卒業にあたってー

笹熊輝さん、中村友哉さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、2人の学校生活、そして天売島での生活を様々な面で支えてくださった保護者、地域の皆様にお礼申し上げます。2人が卒業を迎えて新たなステージへ旅立っていくことを大変嬉しく思います。

入学時より、コロナウイルス感染のため、学校祭だけでなく、島民大運動会やウエ祭など、島の行事にも参加ができず、歯がゆい気持ちになった日々が多かった学年でした。しかし、困難にもめげず、天売高校での3年間を乗り越えられたことは2人にとって大きな財産になるはずです。笹熊さんは、漁師を希望し天売島に残り、中村さんは看護師を目指して進学をします。これからも、自分の可能性を信じて未来を切り開いてほしいと思います。

卒業生より

笹熊輝 君

私はこの天売島に来て天売高校に入学して本当によかったと思います。高校3年間は、ほんとにあっという間でまだ卒業したという実感がありません。日中は仕事、夜間は学校ととても普通の高校では味わえない生活スタイルで大変だったけど、島民の方々や学校の先生方の支えのおかげで無事に3年間過ごすことができました。私は高校を卒業してもこの天売島に残って今働かせてもらっている奈良さんのもとで修業し漁師になる予定です。これからも島民の方々にはまだまだお世話になるとは思いますが、その時はよろしくお祈りします。学校の先生方、本当にありがとうございました。3年間お世話になりました。



中村友哉 君

私は天売島に来島して初めに島の方々に「大変だけど頑張っ！」などすごく優しくしてもらいました。ですが、天売高校に入学して1年が経とうとしたときに、腹痛で離島し島の方々にもご心配とご迷惑をかけたと思います。離島して担任に単位が足りないと言われた時は、学校をやめようと思いましたが、その時、島の方々も心配して待ってるよと伝えられ、もう1回島で頑張りたい、島の方々や仲良くなりたいと思い補習を受け進級することができ、将来の夢も見つけ専門学校の入試の勉強も何回も諦めかけ、そのたびに島の方々が応援してくださり、無事に入試に合格することができました。

長期休みがあった際には島に遊びに来ようと思っているので、見かけたら声をかけてくれると嬉しいです。3年間ほんとお世話になりました。



天売の未来

昨年12月10日(土)に校内で「天売の未来Ⅲ」の発表を行いました。これまでに天売学で学んできたことを基に、自分たちが望ましいと考える天売の未来についてまとめ、発表を行いました。1~3学年、全6チームそれぞれが個性的で創造的な提案を行いました。天売島の課題に向き合い、それらを解決するために取り組むことは、天売島に住む高校生として真剣に向き合わなければいけないことだと再確認したのと同時に、他のグループの発表をから、新たな発見を得る時間となりました。

また、当日多くの島民の方に参観していただいたことも、生徒たちにとって大きな活力となりました。

【発表テーマ】

- ◆ 1学年Aチーム「海獣トンネル」
- ◆ 1学年Bチーム「天売島に人を増やすには？」
- ◆ 2学年Bチーム「天売島と飛鳥・人口増化への取り組み」
- ◆ 2学年Cチーム「空き家の再利用」
- ◆ 2学年Aチーム発表「天売島で起こす新しい事業プラン」
- ◆ 3学年「3年間のまとめ」



体協ソフトバレー大会

1月28日(土)の体協ソフトバレー大会では、高校から6チームが出場しました。この日に向けて体育の授業で練習を重ね、授業以外では始業前や昼休みに有志のメンバーで繰り返し練習に励んできました。「体協を楽しみたい」と思う一方で「島民チームに勝ちたい」という気持ちが芽生える中、上手くいかないこともありましたが結果は1チームが善戦を重ね、見事優勝を掴み取ることができました。運営面では審判を始め進行や司会、受付など行事を重ねる毎に責任を持って取り組む姿勢が多くなってきたように思います。

今年度も島民の皆様方のご理解とご協力のおかげで体協行事を円滑に進めることができました。この場を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



校内レクリエーション

1月31日(火)に、生徒会企画の校内レクリエーションを実施しました。某お正月番組のパロディで「格付けチェック」と称し、味覚や嗅覚などが試される問題に生徒たちが挑戦しながら、真の「一流天売生」を目指すという内容でした。

昨年・一昨年の校内レクリエーションを超えたいという生徒会長の熱い想いもあり、生徒会役員は企画段階から懸命に準備を進めていました。しかしコロナウイルスなどの関係で、本来予定していた12月の開催を見送ることとなり、冬休みを挟んだ1月の開催が決まりました。

長期休みを挟むことで生徒の士気が下がってしまわないか心配でしたが、役員4名の誰もモチベーションを下げることなく、冬休み中にもかかわらずオンラインで連絡を取り合うなど活発に動く姿が見られました。

企画が始まると、参加している生徒たちは正解・不正解に一喜一憂しながらも、終止盛り上がりを見せていました。企画に参加する生徒たちの楽しそうな顔を見て、運営を行っていた生徒会役員たちも達成感を味わうことが出来たと満足気でした。生徒全員が実りある時間を過ごすことができ、非常に有意義な行事となったように思います。

